

2019 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科  | 言語聴覚士学科     |                 | 科 目 区 分                                      | 専門分野             | 授業の方法                 | 講義演習          |
|--|-------------|-----------------|--|------------------|-----------------------|---------------|
| 科 目 名  | 言語聴覚障害診断学 I |                 | 必修/選択の別                                      | 必修               | 授業時数(単位数)             | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年  | 1年生         |                 | 学期及び曜時限                                      | 前期 火3・4          | 教室名                   | 702           |
| 担 当 教 員  | 高松光雪        | 実務経験と<br>その関連資格 | 心身障害福祉センターに言語聴覚士としての勤務経験有り。発達障害児の言語訓練を行っていた。 |                  |                       |               |
| 《授業科目における学習内容》   |             |                 |  |                  |                       |               |
| 小児のコミュニケーションの問題を評価するためにどんな視点が必要か、その知識を学習し、それを基にビデオを見ながらグループで子どもの持っているコミュニケーション上の問題を整理し、具体的な訓練方法を考える。 |             |                 |  |                  |                       |               |
| 《成績評価の方法と基準》   |             |                 |  |                  |                       |               |
| 定期試験70%<br>レポート30%   |             |                 |  |                  |                       |               |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》  |             |                 |  |                  |                       |               |
| プリント   |             |                 |  |                  |                       |               |
| 《授業外における学習方法》  |             |                 |  |                  |                       |               |
| 各回の資料のまとめとGWでの資料作成を話し合い  |             |                 |  |                  |                       |               |
| 《履修に当たっての留意点》  |             |                 |  |                  |                       |               |
| 小児のこたばの問題を考える際、評価のポイント(問題点の抽出)を身につけてください。<br>9月から始まる「こたばの相談室」に活かせる内容にしていきます。                         |             |                 |  |                  |                       |               |
| 授業の<br>方法  | 内 容         |                 |  | 使用教材             | 授業以外での準備学習<br>の具体的な内容 |               |
| 第1回  | 講義形式        | 授業を通じての到達目標     | 診断の流れを知る。面談の留意事項を理解する。                       | 資料(プリント)         | 復習)ノートまとめ             |               |
|  |             | 各コマにおける授業予定     | 評価・診断とは何か。①診断までの流れ②面談とは？                     |                  |                       |               |
| 第2回  | 講義形式        | 授業を通じての到達目標     | 評価するとはどういうことか。どんな評価法があるかを理解する。               | 資料(プリント)         | 復習)ノートまとめ             |               |
|  |             | 各コマにおける授業予定     | 客観的な評価法(様々な検査法の概略を理解する)                      |                  |                       |               |
| 第3回  | 演習実習形式      | 授業を通じての到達目標     | 具体的な検査の手続きを理解する。                             | 資料(プリント)<br>検査道具 | 復習・予習)検査練習            |               |
|  |             | 各コマにおける授業予定     | 評価方法①(検査演習)                                  |                  |                       |               |
| 第4回  | 演習実習形式      | 授業を通じての到達目標     | 具体的な検査の手続きを理解する。                             | 資料(プリント)<br>検査道具 | 復習・予習)検査練習            |               |
|  |             | 各コマにおける授業予定     | 評価方法②(検査演習)                                  |                  |                       |               |
| 第5回  | 講義形式        | 授業を通じての到達目標     | 発達のヒエラルキーを理解する。感覚とは何かを理解する。                  | 資料(プリント)         | 復習)ノートまとめ             |               |
|  |             | 各コマにおける授業予定     | 神経心理学的な発達の見方(感覚統合の考え①)                       |                  |                       |               |

| 授業の方法 |        | 内 容         |                                    | 使用教材        | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|--------|-------------|------------------------------------|-------------|-------------------|
| 第6回   | 講義形式   | 授業を通じての到達目標 | 感覚を統合する意味を理解する。                    | 資料(プリント)    | 復習)ノートまとめ         |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | 神経心理学的な発達の見方(感覚統合の考え②)             |             |                   |
| 第7回   | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 言語学的4側面を理解し、語用論とは何かを理解する。          | 資料(プリント)    | 復習)ノートまとめ         |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | 言語獲得理論としての語用論とINREALアプローチ概論        |             |                   |
| 第8回   | 演習実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 語用論的なアプローチとは何かを理解する。ビデオ分析の方法を学習する。 | 資料(プリント)    | 復習)ノートまとめ         |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | INREALアプローチ概論(演習)                  |             |                   |
| 第9回   | 演習形式   | 授業を通じての到達目標 | 子どもの見方、指導の仕方をビデオを分析しながら学習する。       | DVD<br>作成資料 | 復習)ノートまとめ         |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | INREALアプローチ概論(演習)～グループワーク・ビデオ分析～①  |             |                   |
| 第10回  | 演習形式   | 授業を通じての到達目標 | 子どもの見方、指導の仕方をビデオを分析しながら学習する。       | DVD<br>作成資料 | 復習)GWのまとめ         |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | INREALアプローチ概論(演習)～グループワーク・ビデオ分析～②  |             |                   |
| 第11回  | 演習形式   | 授業を通じての到達目標 | 子どもの見方、指導の仕方をビデオを分析しながら学習する。       | DVD<br>作成資料 | 復習)GWのまとめ         |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | INREALアプローチ概論(演習)～グループワーク・ビデオ分析～③  |             |                   |
| 第12回  | 演習形式   | 授業を通じての到達目標 | 子どもの見方、指導の仕方をビデオを分析しながら学習する。       | DVD<br>作成資料 | 復習)GWのまとめ         |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | INREALアプローチ概論(演習)～グループワーク・ビデオ分析～④  |             |                   |
| 第13回  | 演習形式   | 授業を通じての到達目標 | 子どもの見方、指導の仕方をビデオを分析しながら学習する。       | DVD<br>作成資料 | 復習)GWのまとめ         |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | INREALアプローチ概論(演習)～グループワーク・ビデオ分析～⑤  |             |                   |
| 第14回  | 演習形式   | 授業を通じての到達目標 | 子どもの見方、指導の仕方をビデオを分析しながら学習する。       | DVD<br>作成資料 | 復習)GWのまとめ         |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | INREALアプローチ概論(演習)～グループワーク・ビデオ分析～⑥  |             |                   |
| 第15回  | 講義形式   | 授業を通じての到達目標 | グループワーク発表を聞き演習を振り返り、演習課題を理解する。     | GWでの作詞資料    | 復習)診断学 I の総まとめを行う |
|       |        | 各コマにおける授業予定 | グループワーク発表・まとめ                      |             |                   |